

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00309

研究課題名(和文) 弘前藩藩校「稽古館」旧蔵本の悉皆調査による近世津軽における知識集成の解明

研究課題名(英文) What a comprehensive survey of the old book collection of the Keiko-kan Hirosaki Clan School can tell us about knowledge acquisition in the early modern Tsugaru region

研究代表者

植木 久行 (UEKI, Hisayuki)

弘前大学・人文社会科学部・客員研究員

研究者番号：20160153

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：近世期(江戸時代)、中央から遠く離れた地方における「知のあり方」(知識の集成)は、どのように形成されたのであろうか。本研究では、本州最北端の弘前(津軽)における知識・学問の状況を、弘前藩の藩校「稽古館」旧蔵本と弘前藩主の「奥文庫」本を調査・分析することによって解明する。このため、旧弘前藩関連の古典籍を最も多く蔵する東奥義塾高校図書館所蔵本を悉皆調査して、学びの記録・知の証としての典籍を具体的に考察した。そして江戸末期に成る『稽古館蔵書目録』の内容を考証して、この考察を補足した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世期(江戸時代)、中央から遠く離れた地方都市 - 本州最北端の弘前(津軽)における知識と学問の状況を、東奥義塾高校図書館に所蔵する、旧弘前藩の藩校「稽古館」旧蔵書と旧弘前藩主の私的蔵書「奥文庫」本を調査・分析して、蔵書の特徴や意義を明らかにし、弘前(津軽)という一地方における「知のあり方」(知の集積)を解明した。

あわせて江戸末期に成る2種の稽古館(学問所)蔵書目録『稽古館蔵書目録』『学問所御蔵書員数目録』(弘前市立図書館蔵)に対する基礎研究を行った。

研究成果の概要(英文)：During Japan's early modern period (Edo Period), how was knowledge gathering pursued in provinces far from the cultural and political center of the Edo capital? This research seeks to shed light on this topic through a comprehensive survey of the old book collection of the "Keiko-kan" clan school and the "Okubunko" private library of the feudal lord of the Hirosaki (Tsugaru) Clan, the northernmost samurai domain on the island of Honshu during the Edo Period. Toward this end, a comprehensive survey of Hirosaki Clan-related original documents in the library of Toogijuku High School, which has the largest collection of such materials, has been conducted in order to research specific ways in which learning and knowledge acquisition were carried out at the time. As a supplementary study, an examination was conducted of the contents of the "Library Catalogue of Keiko-kan Clan School"

研究分野：中国古典文学

キーワード：藩校稽古館の旧蔵書 津軽の知の体系 藩校の蔵書と教育

1. 研究開始当初の背景

近世期(江戸時代)、江戸や上方(京都・大坂)では、豊かな文化が育まれ、多くの書籍が出版され、人々は私塾や学校で学んだ。では、中央から離れた地方における「知のあり方」(知の集積)は、どのようなものであり、どのように形成されたのであろうか。従来、近世の学問の研究は江戸や上方が中心であり、地方における文化・出版を含む「知のあり方」は、依然として多く未解明である。「地方の時代」と言われる昨今、地方における「知のあり方」を解明することは重要な研究課題である。

近年、大名文庫に関心が向けられ、地方寺院の悉皆調査が実施されて、優れた成果を上げている。しかし、日本各地に設けられた藩校(藩費で経営する学校)の旧蔵書は、当該地域における知識・学問の状況を解明できる格好の対象であるにもかかわらず、藩校の旧蔵書を実際に手にとって悉皆調査する研究は、ほとんど看過されてきた。藩校蔵書に対する従来の研究は、藩校の旧蔵書を実際に調査するのではなく、蔵書目録による研究であった。これは、藩校蔵書の大半が明治期の体制・学制の変革によって散逸したため、藩校蔵書の実態を具体的に探究できる事例が乏しかったからであろう。ところが、青森県弘前市にある東奥義塾高校図書館には、旧弘前藩の藩校「稽古館」の旧蔵書がまとまった形で現存していたのである。

2. 研究の目的

近世期(江戸時代)、中央から遠く離れた地方都市では、どのような知識・学問が形成されていたのであろうか、知識・学問の集積が、どのようになされていたのであろうか。

本研究では、本州最北端の弘前(津軽)における知識・学問の状況を、東奥義塾高校図書館に所蔵する、旧弘前藩の藩校「稽古館」旧蔵書と旧弘前藩主の私的蔵書「奥文庫」本を悉皆調査することを通して、この研究課題を明らかにすることを目的とする。東奥義塾高校図書館は、藩校の旧蔵書をまとまった形で所蔵する、全国的にも稀有な図書館である。あわせて旧弘前藩主の私的蔵書をも収蔵する特異性を活用して、個々の貴重な典籍を調査・分析して、その特徴や意義を明らかにし、弘前(津軽)という一地方における「知のあり方」(知の集積)を明らかにする。

3. 研究の方法

弘前藩の藩校「稽古館」は、江戸後期の寛政8年(1796)に創設され、文・武・医の三分野を教授したが、文化5年(1808)、規模を縮小・移転して学問所となり、教科も激減した。稽古館の旧蔵書をまとまった形で所蔵する、東奥義塾高校図書館本の中で、「稽古館蔵」印(「弘前学問所」印・「弘前藩学校」「弘道館〔江戸藩邸内の学問所〕図書印」等を含む)が捺された典籍を悉皆調査して、内容を分析して個々の意義を探り、学びの記録・知の証としての具体例を考察する。「文化/乙丑」(文化2年〔1805〕)の方形小印も捺されている場合は、藩校創設後、10年未満の初期に配架された旧蔵書である。そして江戸末期に成る2種の稽古館(学問所)蔵書目録『稽古館蔵書目録』『学問所御蔵書員数目録』(弘前市立図書館蔵)の著録状況と比較して考究するために、蔵書目録の内容を考証する。

東奥義塾高校図書館には、さらに稽古館旧蔵本よりも質の高い弘前藩主の私的蔵書「奥文庫」本を収蔵する。この「奥文庫」本に対しても、捺された「奥文庫」印を手がかりに悉皆調査して、稽古館旧蔵本とともに、弘前(津軽)の「知のあり方」(知の集積)を総合的に検討・解明する重要な証拠とする。

また、毎年、弘前大学人文社会科学部で「旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会」を開き、藩校

関連の研究者を招聘して講演を願うとともに、研究代表者及び研究分担者が中心となって当該年度の典籍調査の一端を発表する。

4. 研究成果

(1) 弘前藩の藩校・稽古館は、寛政8年(1796)に創立された、文・武・医を備えた総合教育施設の名称である。以後、校名は弘前学問所、弘前藩学校と変遷し、明治4年(1871)7月の廃藩置県で廃校となる。稽古館の創立時から75年間続いた弘前藩の藩校を、「稽古館」と通称する。稽古館の蔵書数は長く「概ネ一万部余」とされてきたが、蔵書数のより正確な探究は、藩校の学問と教育を測定する指標として重要である。江戸末期に成る2種の蔵書目録(『稽古館蔵書目録』『学問所御蔵書員数目録』)によれば、稽古館(学問所)の所蔵書の概数は、書名の種類が1415種、部数は1956部、冊数は20515冊となる。その部数は米沢藩(15万石)興譲館所蔵の1937部に匹敵する。

稽古館では経学(儒学)と書学を必修教科とした。経学の教科書として、四書のうち、朱子学が尊重する『大学』『孟子』『中庸』が採用されず、『論語』にしても朱子の新注ではなく、太宰春台の『論語古訓』が採用されて、徂徠学(儒学)の教育方針が貫かれた。これを裏づけるように、稽古館は儒学者・荻生徂徠とその高弟・太宰春台の著書を多く所蔵した。

東奥義塾高校図書館所蔵本を蔵書印によって判定すれば、稽古館旧蔵の和漢書の概数は165種・167部・3136冊、稽古館旧蔵の洋書(蘭書・英文書)の概数は13種・14部・19冊となる。そして稽古館設立9年後の文化2年(1805)、蔵書点検作業で捺された白文方形の小印「文化/乙丑」を持つ典籍が『淵鑑類函』『藻塩草』『經典釈文』を始めとして、43種・43部・1513冊に及ぶことは注目に値する。稽古館・奥文庫(弘前藩主の私的蔵書)所蔵本の保存には、幕末・明治期の教育者・漢学者、工藤他山が大きく貢献した(植木「弘前藩の藩校・稽古館蔵書考」)。

(2) 2021年度の古典籍調査(解題を載せた書籍)は20点(研究協力者の執筆を含む)。この中では、「稽古館蔵」印が『四書諸儒輯要』『新編算学啓蒙』『遭厄日本紀事』の中に見え、『新編算学啓蒙』にはさらに、藩校創設後、10年未満の初期に配架されたことを示す「文化/乙丑」(文化2年〔1805〕)の方形小印も有する。そして「弘前学問所」印が『四書諸儒輯要』『春秋左伝註疏』に、「弘道館図書印」が『春秋左伝註疏』に、「弘前藩学校」印が『外国交際公法』に見える。「奥文庫」印は『周易兼義』『尚書註疏』『礼記註疏』『十七史』(いずれも明末刊の汲古閣本〔ただし後印本〕)であり、『十七史』にはさらに薩摩藩・島津家所用の蔵書印「島津氏/蔵書/五車之一」もある)の中に見え、『元輔集』は「奥文庫」印を欠くが、その形態から藩主所持本と推定される(『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第8集所収の解題集。植木ほか全5名の執筆)。

(3) 東奥義塾高校図書館には、近世期に溯る21点の、古典籍保存木箱が伝存する。その中の典籍は、多く「奥文庫」印を有する藩主の私的蔵書であり、寄贈時に書物とともに東奥義塾の所蔵になる。また藩校所蔵の大部な書物(『佩文韻府』『淵鑑類函』など)も木箱で保管されていた。木箱に記された墨書や貼紙によって、江戸期の蔵書管理体制や蔵書点検作業を考察することができる。津軽伯爵家からの寄贈時の2箱には、「向陽義塾」(工藤他山の私塾)・「売払証」印をもつ奥文庫本・稽古館旧蔵本がある程度まとまって収納されており、向陽義塾(売払証)

津軽家 東奥義塾の、典籍伝来のルートが想定できる(武井「東奥義塾高校図書館所蔵古典籍の保存木箱について」)。

(4) 弘前市立図書館には、江戸末期の稽古館(学問所)の蔵書目録、『稽古館蔵書目録』『学問所御蔵書員数目録』(嘉永元年〔1848〕写)の2種を所蔵する。2種の記述内容はほぼ同じである(ただし、「典句席御預分」の部立は『稽古館蔵書目録』にのみ見え、「蘭書」の部立は『学問所御蔵書員数目録』にのみある)。このため、『稽古館蔵書目録』の著録に拠りながら、『学問所御蔵書員数目録』を参照した。『稽古館蔵書目録』の書籍部分は、〔部立の名なし〕(「司監江御預之部」か)、兵書、雑書、小司預御書物、和学方江御預之部、書学方江御預之部、経学方御預之部、数学方江御預之部、典句席御預分、医書目録、という10の部立(部類)から成る。各部に著録する書名の概数を調査すれば、「司監江御預之部」?は425種、「兵書」は28種、「雑書」は68種、「小司預御書物」は105種、「和学方江御預之部」は99種、「書学方江御預之部」は23種、「経学方御預之部」は6種、「数学方江御預之部」は206種、「典句席御預分」は29種、「医書目録」は220種となり、書名の合計は1209種となる。部立の内部は通常、イロハ順に書名・冊数・部数のみを記し、書籍の撰者や内容に言及しない。このため、部立(部類)を解説するとともに、著録される書籍の撰者と内容を考究し、同一書名を3部以上所蔵する書籍名を列記した。部数の多さは当該書に対する重視を反映していよう。「初探」では「司監江御預之部」・「経学方御預之部」・「典句席御預分」、「再探」では「兵書」・「雑書」・「小司預御書物」・「和学方江御預之部」・「書学方江御預之部」の部立を扱った。『稽古館蔵書目録』には、さらに「数学方江御預之部」・「医書目録」の部立もあるが、この8部立の考証だけでも、江戸末期における稽古館(学問所)蔵書の諸相を充分推測できよう(植木「弘前藩校・稽古館旧蔵書研究初探」「弘前藩校・稽古館旧蔵書研究再探」)。

(5) 2020年度の古典籍調査(解題を載せた書籍)は22点(研究協力者の執筆を含む)。この中では、「稽古館蔵」印が『弘簡録』『続弘簡録元史類編』『漢書評林』『環海異聞』『古周易経断(内編・外編)』『周易折中』『欽定書経伝説彙纂』『欽定春秋伝説彙纂』『藻塩草』の中に見える。後半の5書にはさらに「文化/乙丑」(文化2年〔1805〕)の方形小印も有し、藩校創設後、10年未満の初期に配架されていた。また「奥文庫」印が『通俗演義三国志伝』に、「弘前藩学校」印が『綱鑑易知録』『明鑑易知録』に、「弘前学問所」印が『漢書評林』に、「弘道館図書印」が『弘簡録』に見えている(『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第7集所収の解題集。植木ほか全9名の執筆)。

(6) 東奥義塾高校図書館には、藩校の書物を借用する際に提出した、山鹿八郎左衛門、皆川周作、坂巻庄助らの御書物拝借手形が、9点伝存する。これは、藩校の書物の貸出管理の実態を伝える史料として注目され、拝借手形にある程度定型の書式があったことがわかる(武井「東奥義塾高校図書館所蔵 御書物拝借手形」)。

(7) 2019年度の古典籍調査(解題を載せた書籍)は40点(研究協力者の執筆を含む)。この中では、「稽古館蔵」印が『中庸章句大全』『孟子集註大全』『春秋左伝〔集解〕』『七書講義』『芸苑日涉』『佩文韻府』『淵鑑類函』『五代史』『朱子語類大全集〔朱子経説〕』『朱子語類大全集〔朱子語類〕』『宋元資治通鑑』『欽定詩経伝説彙纂』『農政全書』『礼儀類典』『大日本史』(2部)『湖月抄』の中に見える。このうち『中庸章句大全』『七書講義』『淵鑑類函』『宋元資治通鑑』『礼儀類典』『大日本史』の6書には、「文化/乙丑」(文化2年〔1805〕)の方形小印も有し、藩校創設後、10年未満の初期に配架されていた。「奥文庫」印は『標題註疏小学集成』『晋書』『宋書』『南齐書』『陳書』『唐書』『〔重訂〕世説新語補』『資治新書〔初

集)資治新書二集』、『南亭余韻』、『湖月抄』に見える。また「弘前学問所」印が『湖月抄』に、「弘道館図書印」が『湖月抄』にある(『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第6集所収の解題集。植木ほか全10名の執筆)。

(8)2018年度の古典籍調査(解題を載せた書籍)は31点(研究協力者の執筆を含む)。

この中では、「稽古館蔵」印が『大復集』、『廿二史劄記』、『資治通鑑』、『資治通鑑 増資治通鑑 积例図譜・資治通鑑問疑・資治通鑑目録・資治通鑑 积文弁誤・通鑑前編 摘要・増定資治通鑑前編・通鑑前編』、『群書類従』(4部)、『天時占候』、『御製曆象考成上編』、『御製曆象考成表』、『談天』の中に見える。このうち『資治通鑑 増資治通鑑 积例図譜・資治通鑑問疑・資治通鑑目録・資治通鑑 积文弁誤・通鑑前編 摘要・増定資治通鑑前編・通鑑前編』、『御製曆象考成上編』、『御製曆象考成表』の3書には、「文化ノ乙丑」(文化2年〔1805〕)の方形小印も捺され、藩校創設後、10年未満の初期に配架されていた。「奥文庫」印は『彙書詳註』、『易経大全』、『書経大全』、『礼記集説大全』、『春秋集伝大全』、『春秋胡伝』、『大学衍義補』、『四書集註』、『尺牘双魚』、『群書類従』、『明訓一班抄』、『遵行録』の中に見える。また「弘前学問所」印が『資治通鑑』、『群書類従』に、「弘前藩学校」印が『資治通鑑』に、「弘道館図書印」が『大復集』、『群書類従』に、「津軽蔵書」印が『群書類従』に見えている(『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第5集所収の解題集。植木ほか全8名の執筆)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 植木 久行	4. 巻 8集
2. 論文標題 解題『四書諸儒輯要』他全11点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 25 - 116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植木 久行	4. 巻 8集
2. 論文標題 弘前藩の藩校・稽古館蔵書考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 13 - 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井 紀子	4. 巻 8集
2. 論文標題 東奥義塾高校図書館所蔵古典籍の保存木箱について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 167 - 175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 麻里子	4. 巻 8集
2. 論文標題 解題『元輔集』他全3点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 132 - 157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植木 久行	4. 巻 7集
2. 論文標題 解題『通俗演義三国志伝』他全10点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 20-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植木 久行	4. 巻 7集
2. 論文標題 弘前藩校・稽古館旧蔵書初探	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植木 久行	4. 巻 39集
2. 論文標題 弘前藩校・稽古館旧蔵書再探	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国詩文論叢	6. 最初と最後の頁 245-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荷見 守義	4. 巻 7集
2. 論文標題 解題『歴朝紀政綱目』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 78-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井 紀子	4. 巻 7集
2. 論文標題 解題『史徴』他全5点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 87-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井 紀子	4. 巻 7集
2. 論文標題 東奥義塾高校図書館所蔵 御書物拝借手形	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 133-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 麻里子	4. 巻 7集
2. 論文標題 解題『藻塩草』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 125-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植木 久行	4. 巻 6集
2. 論文標題 解題『七書講義』他全21点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 16 - 126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荷見 守義	4. 巻 6集
2. 論文標題 解題『農政全書』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 127 - 131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井 紀子	4. 巻 6集
2. 論文標題 解題『〔官刻〕孝義録』他全5点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 132 - 169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 麻里子	4. 巻 6集
2. 論文標題 解題『南亭余韻』他全4点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 217 - 259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植木 久行	4. 巻 5集
2. 論文標題 解題『彙書詳註』他全14点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 46-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荷見 守義	4. 巻 5集
2. 論文標題 解題『尺牘双鱼』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 131-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井 紀子	4. 巻 5集
2. 論文標題 解題『群書類聚』他全6点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 134-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川瀬 卓	4. 巻 5集
2. 論文標題 解題『啓蒙知恵の環』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 166-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 麻里子	4. 巻 5集
2. 論文標題 解題『明訓一班抄』他全3点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録	6. 最初と最後の頁 201-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 植木 久行
2. 発表標題 弘前藩校稽古館の蔵書 蔵書目録と古典籍調査を踏まえて
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡辺 麻里子
2. 発表標題 弘前藩藩校稽古館旧蔵資料調査の経緯と成果 未来へ向けて
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原 克昭
2. 発表標題 東奥義塾高校図書館所蔵日本思想史関係典籍群について
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 植木 久行
2. 発表標題 清版『弘簡録』と明版『通俗演義三國志伝』－藩校稽古館所蔵本と藩主奥文庫所持本－
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武井 紀子
2. 発表標題 2020年度藩校資料調査概要・東奥義塾高校図書館所蔵日本史関係資料について
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荷見 守義
2. 発表標題 東奥義塾高校図書館所蔵明代関係典籍について
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 植木 久行
2. 発表標題 清の康熙帝勅撰『佩文韻府』と『淵鑑類函』
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武井 紀子
2. 発表標題 『大日本史』と『礼儀類典』の編纂
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺 麻里子
2. 発表標題 東奥義塾高校図書館所蔵奥文庫関係資料について
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荷見 守義
2. 発表標題 徐光啓撰『農政全書』とその周辺
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 植木 久行
2. 発表標題 『資治通鑑』二種－江戸末の藩版と明末の坊刻本－
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武井 紀子
2. 発表標題 東奥義塾高校図書館所蔵資料の保存木箱について
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺 麻里子
2. 発表標題 東奥義塾高校図書館所蔵「奥文庫」関係資料について
3. 学会等名 弘前藩藩校資料調査研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 麻里子 (WATANABE Mariko) (30431430)	大正大学・文学部・教授 (32635)	
研究分担者	荷見 守義 (HASUMI Moriyosi) (00333708)	弘前大学・人文社会科学部・教授 (11101)	
研究分担者	武井 紀子 (TAKEI Noriko) (30736905)	日本大学・文理学部・准教授 (32665)	
研究分担者	川瀬 卓 (KAWASE Suguru) (80634724)	白百合女子大学・文学部・准教授 (32627)	削除：2021年3月8日
研究分担者	原 克昭 (HARA Katuaki) (70318723)	弘前大学・人文社会科学部・准教授 (11101)	追加：2021年3月8日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------